

10. 参考資料

2010.12.12(SUN)

丹波地域 大学・地域連携 4 大学合同シンポジウム

(1) アンケート

アンケート

それぞれ1つ選んで をつけてください。

Q1. 各大学の活動についてどの程度ご存知でしたか。

関西大学佐治スタジオ		
1 よく知っていた	2 少しは知っていた	3 全く知らなかった
関西学院大学柏原スタジオ		
1 よく知っていた	2 少しは知っていた	3 全く知らなかった
兵庫県立大学山南スタジオ		
1 よく知っていた	2 少しは知っていた	3 全く知らなかった
神戸大学篠山フィールドステーション		
1 よく知っていた	2 少しは知っていた	3 全く知らなかった

Q2. 各大学の活動発表に興味を持ってましたか。

関西大学佐治スタジオ			
1 非常に興味を持った	2 少し興味を持った	3 あまり興味を持てなかった	4 全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】			
関西学院大学柏原スタジオ			
1 非常に興味を持った	2 少し興味を持った	3 あまり興味を持てなかった	4 全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】			
兵庫県立大学山南スタジオ			
1 非常に興味を持った	2 少し興味を持った	3 あまり興味を持てなかった	4 全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】			
神戸大学篠山フィールドステーション			
1 非常に興味を持った	2 少し興味を持った	3 あまり興味を持てなかった	4 全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】			

【裏面へ続く】

Q3 . パネルディスカッションについて、内容に興味を持ってましたか。

1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【具体的な理由】							

Q4 . お住まいの地域で大学生が活動することを期待しますか。また、何を期待しますか。
(現在の活動について又は将来活動することを想定してお答え下さい。)

1	とても期待する	2	どちらかという と期待する	3	あまり 期待しない	4	全く 期待しない
【具体的に期待することをお書き下さい】							

Q5 . 本日のシンポジウムについて、ご感想・ご意見など自由にお書きください。

--

最後に あなたご自身について、お尋ねします。

住 所

- 1 丹波市内 2 篠山市内 3 兵庫県内の他市町 4 県外

性 別

- (男 ・ 女) (学 生 ・ 会 社 員 ・ 公 務 員 ・ その他 ())

年 齢

- (10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代以上)

ご協力ありがとうございました。

《集計結果》

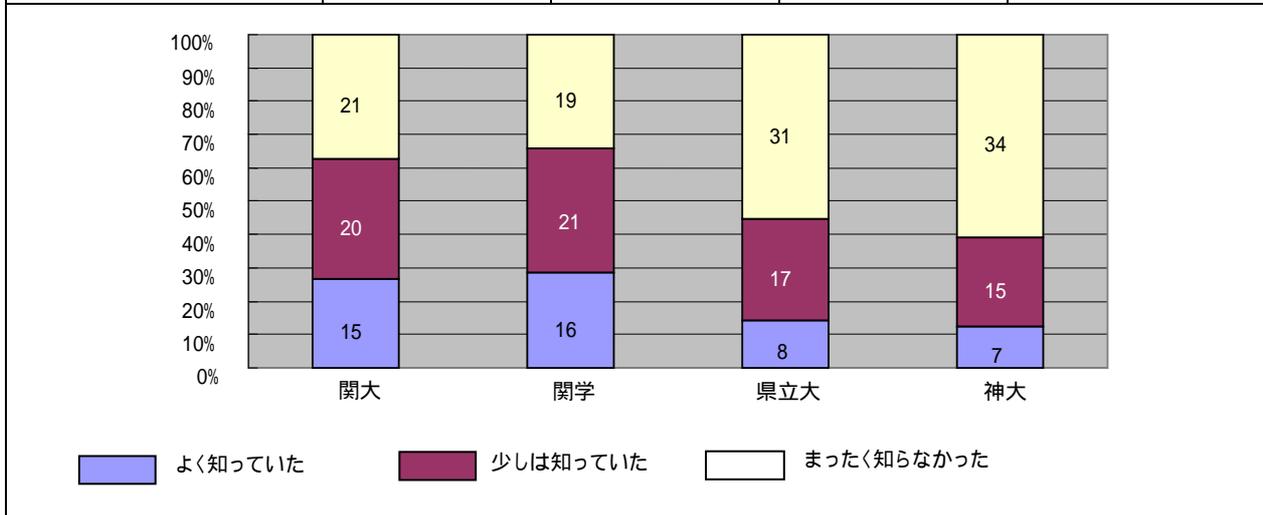
全回答数：56

回答者属性

住所	
丹波市内：18 篠山市内：13 兵庫県内の他市町：17 県外：6 無回答：2	
性別	職業
男：34 女：18 無回答：4	学生：20 会社員：3 公務員：12 その他：16 無回答：5
年齢	
10代：8 20代：17 30代：4 40代：6 50代：8 60代以上：11 無回答：2	

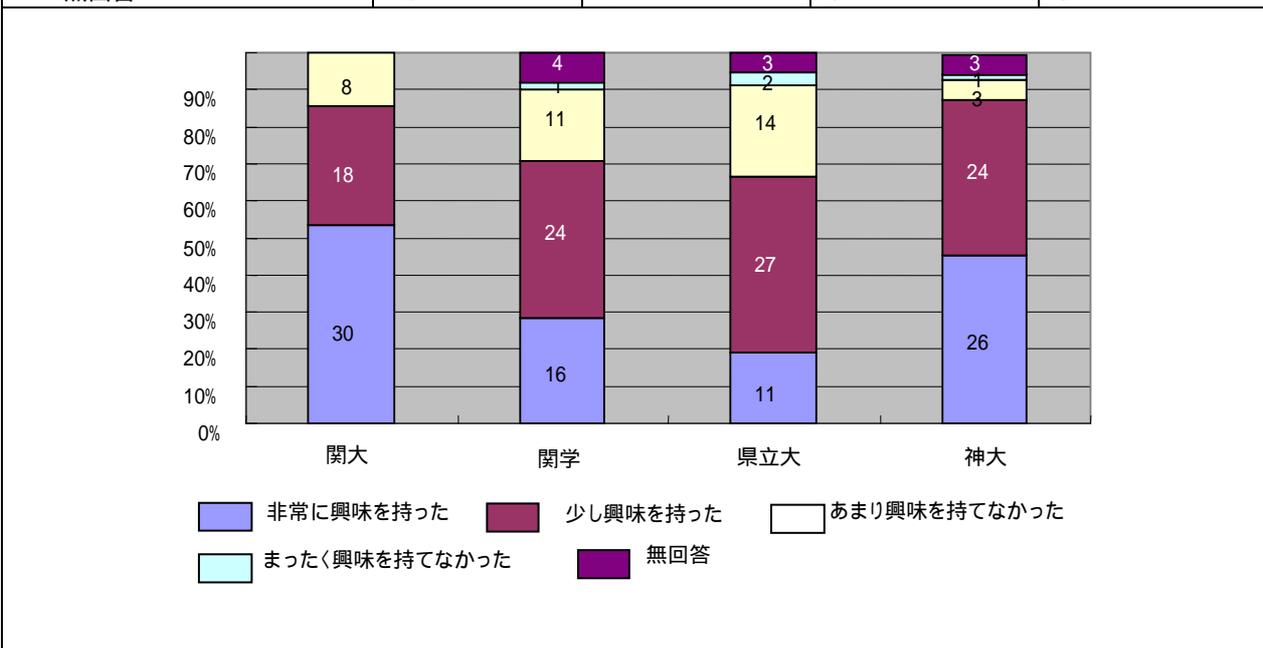
Q 1 . 各大学の活動についてどの程度ご存知でしたか。

	関西大学 佐治スタジオ	関西学院大学 柏原スタジオ	兵庫県立大学 山南スタジオ	神戸大学 篠山フィールド ステーション
1 よく知っていた	15	16	8	7
2 少しは知っていた	20	21	17	15
3 全く知らなかった	21	19	31	34
無回答	0	0	0	0



Q 2 . 各大学の活動発表に興味を持ってましたか。

	関西大学 佐治スタジオ	関西学院大学 柏原スタジオ	兵庫県立大学 山南スタジオ	神戸大学 篠山フィールド ステーション
1 非常に興味を持った	30	16	11	26
2 少し興味を持った	18	24	27	24
3 あまり興味を持てなかった	8	11	14	3
4 全く興味を持てなかった	0	1	2	1
無回答	0	4	3	3

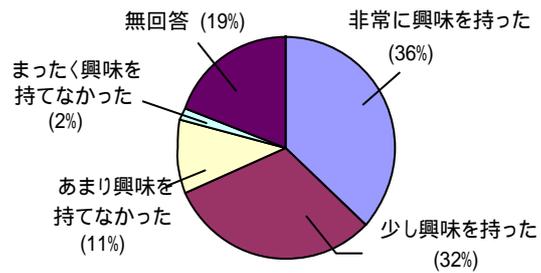


【具体的に興味を持てた点 ()・持てなかった点 ()・その他意見 ()】

関西大学佐治スタジオ	
<p>空き家改修・活用（11件） 地域に根付いた活動（4件） 大学が関わる意義を感じた（2件） 地域住民との交流の多さ（2件） 住民と一体となったまちづくり（3件） 佐治倶楽部 同じ地域に住んでいるので興味深い</p>	<p>単位取得できる 難しかった（2件） 交流の様子があまり見えない 存在の理解があまり ・参考になる ・実施者が見えない</p>
関西学院大学柏原スタジオ	
<p>まちの分析、魅力の再発見（2件） 地域イベントへの参加（2件） KGカフェ・スタジオの活用（2件） 地元との交流 大学が関わる意義を感じた 中心市街地活性化 学生と地域の連携がスムーズ 学生が積極的に提案している 単位取得できる 活動がわかりづらい（2件） 地元への効果がわからなかった（2件）</p>	<p>目標と手段がマッチしていない 住んでいる所からは遠いから 商店街のみに特化されている やる気をあまり感じない 難しかった ・地域側が成果を急ぐあまり学生のプレッシャーになっている ・テーマの絞り込み ・地域の巻き込み方が課題 ・実施者が見えない</p>
兵庫県立大学山南スタジオ	
<p>恐竜化石をいかしたまちづくり（6件） これからどうなっていくのか（5件） 全県キャンパス構想（2件） 授業で来丹してくれている 充実した拠点整備 大学が関わる意義を感じた 漠然としている</p>	<p>難しかった もっと地域との連携を考えるべき ・拠点の活用を ・実施者が見えない ・他にも県内にサテライトを設置してほしい ・何をするのか決めずにスタジオを設立した印象を受けた</p>
神戸大学篠山フィールドステーション	
<p>活動内容、学習カリキュラム（9件） 自分たちが関わっていることだから（4件） 活動が具体的（3件） 農業を切り口としている点（2件） 学生が農業に携わっている点（2件） 地域との関わり（2件） 今後の拠点の活用 戦略的にメリットを得ようとしている点</p>	<p>自分の地域に応用したい 卒業後も関わってくれそう 同じ篠山に住んでいるから 共に学ぶ姿勢 目玉がない点（農地のみ） 長期的な視点が足りない ・篠山に限らず丹波でも活動して欲しい ・学生と地域の理解が必要</p>

Q3 . パネルディスカッションについて、内容に興味を持ってましたか。

1 非常に興味を持った	20
2 少し興味を持った	18
3 あまり興味を持てなかった	6
4 全く興味を持てなかった	1
無回答	11



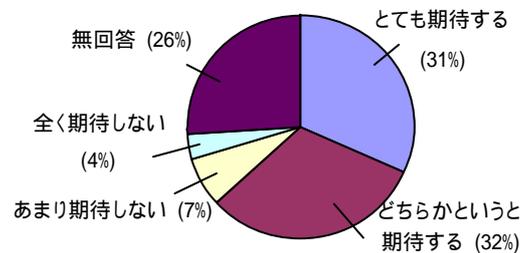
【具体的な理由、意見】

- ・他大学の取り組みを知ることができた、比較することができた（8件）
- ・地域の特色を踏まえた連携の必要性を感じた（4件）
- ・パネリストのエピソードが興味深かった（4件）
- ・関わり方、それぞれの役割について参考になった
- ・会場からの意見に（2件）
- ・学生が農業に興味を持ってもらえる可能性を感じた
- ・難しかった（3件）
- ・地元は学生が思う以上に金銭面、ビジネス面でシビアだと感じた
- ・大学と地域の論点がずれているときがあった
- ・時間切れで議論が深まらず残念（3件）
- ・こういう機会を年に1～2回設けて欲しい

Q4 . お住まいの地域で大学生が活動することを期待しますか。また、何を期待しますか。

（現在の活動について又は将来活動することを想定してお答え下さい。）

1 とても期待する	17
2 どちらかという期待する	18
3 あまり期待しない	4
4 全く期待しない	2
無回答	15



【具体的に期待することをお書き下さい】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域内の関係性を再構築するきっかけづくり ・地域住民との交流 ・イベントを実施する際に若者の知恵と行動力を借りたい ・若い感覚、新しい視点での提案（4件） ・高校生や次世代と高齢者世代の橋渡し（2件） ・大学との交流により自分たちも何かを知る ・地域の魅力の再発見（2件） ・賑わいの創出、商店街の活性化（2件） ・継続的な活動（2件） ・行政との話し合い、意見交換 ・新しい時代に対応した地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり ・農業の担い手になってもらうこと ・協働 あまり変わらないと思う 関わり方による 学生がいる地域なので必要ない |
|---|---|

Q5 . 本日のシンポジウムについて、ご感想・ご意見など自由にお書きください。

- ・具体的な活動について知ることができ、有意義だった（9件）
- ・もっと学生が前に出るべき（3件）
- ・大学と地域の連携の必要性を感じた（2件）
- ・住民として活動に協力したいと感じた（2件）
- ・今後も開催して欲しい（2件）
- ・説明が難しい部分があった（2件）
- ・持続的な関係づくりが大切だと感じた
- ・丹波市に偏っていた
- ・行政からも話をしてほしい
- ・地域側からの主体的な関わり・アプローチが求められていると感じた
- ・地域連携に一番必要なのはコーディネートであり、コーディネーターの人材育成が大切。
- ・次回からはテーマの絞り込みをしてほしい
- ・誰もが変わらないと目標は達成できないと感じた
- ・大学と地域だけでなく行政も含めた三者の合意がないと始まらない
- ・なぜ丹波が活動のフィールドになるのか知りたいと思った
- ・柏原での取り組みの前向きさを強く感じた
- ・篠山の若手グループの未来感が印象的だった
- ・丹波地域の活力を感じた
- ・イメージが変わった
- ・活動には補助金が必要だと感じた

(2) 実行委員会

大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会会則

(名 称)

第1条 この会は、大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会（以下「実行委員会」という。）という。

(目 的)

第2条 実行委員会は、丹波地域において大学が地域と連携して行うまちづくりや農業等に関する活動の発信及び大学と地域の連携の発展を目的とした「大学と地域の連携に関する4大学合同シンポジウム」の実施に関する企画調整及び進行管理を行い、適切かつ円滑に遂行することを目的とする。

(事 業)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 企画及び事業計画の策定に関すること
- (2) 総合調整及び進行管理に関すること
- (3) 広報活動の推進に関すること
- (4) その他必要な事項

(構成員)

第4条 実行委員会は、別表に掲げる者をもって構成する。

(役 員)

第5条 実行委員会に、会長1名、副会長1名を置く。
 2 会長は、委員の互選によりこれを定め、副会長は委員の中から会長が指名する。
 3 会長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。
 4 副会長は、会長を補佐し、会長が不在のとき、または会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会 議)

第6条 実行委員会の会議は、必要に応じて会長が招集し、会長がその議長となる。
 2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
 3 委員が、事故その他やむを得ない理由により会議に出席でき

ないときは、あらかじめ会長の承認を得て、代理人を出席させることができる。

4 実行委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(会長の専決処分)

第7条 会長は実行委員会を招集するいとまがないとき、又は本会の権限に属する事項で簡易なものについては、これを専決処分することができる。

2 前項の規定により専決処分したときは、会長は、これを次の実行委員会において報告し、その承認を求めなければならない。

(謝金)

第8条 学識経験者である委員が会議その他の委員会の業務に従事したときは、別に定めるところにより、謝金を支給する。

(旅費)

第9条 学識経験者である委員が委員会の業務を行うために、会議に出席し、又は旅行したときは、旅費を支給する。

2 前項の旅費の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和35年兵庫県条例第44号）の規定により行政職6級の職務にある者に対して支給する額に相当する額とする。

(事務局)

第10条 実行委員会の事務局は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課に置く。

2 事務局長は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課長の職にある者をもって充てる。

(補 則)

第11条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この会則は、平成22年10月8日から施行し、平成23年3月31日限りで失効する。

別 表

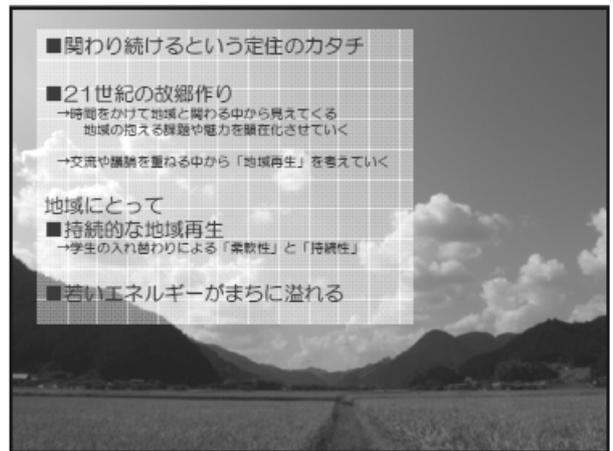
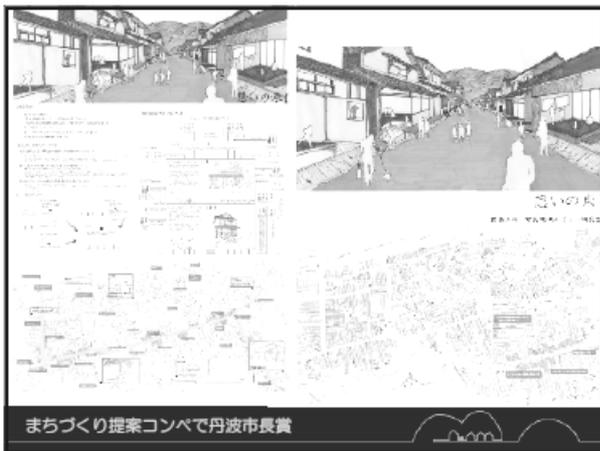
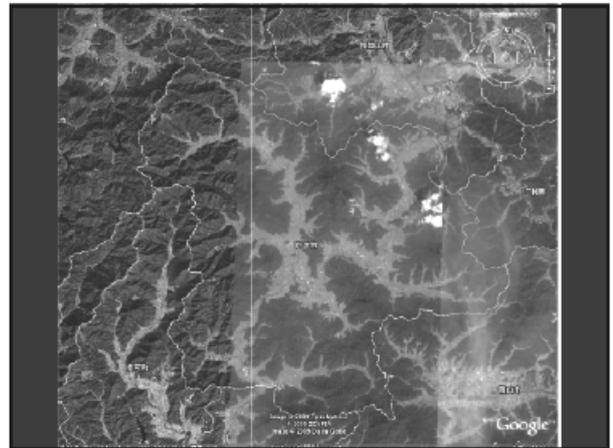
大学・地域連携4大学合同シンポジウム実行委員会委員

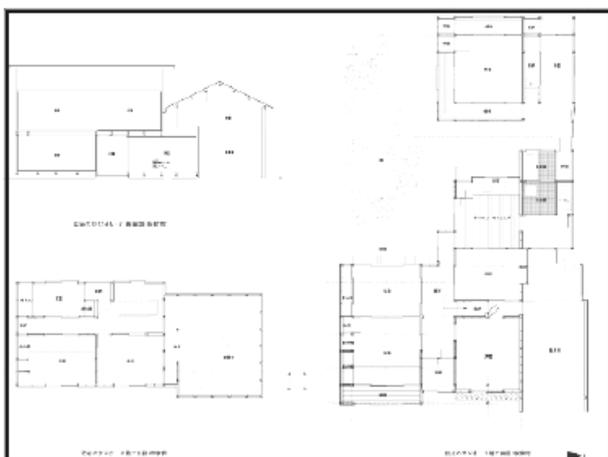
(順不同)

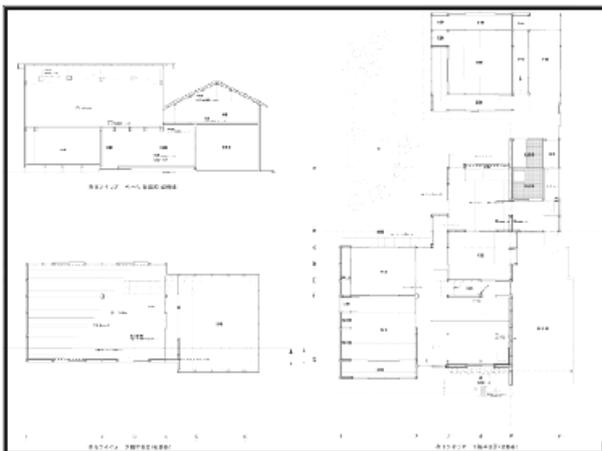
氏 名	分 野	所属団体・役職名	備 考
江 川 直 樹	学識経験者	関西大学 環境都市工学部 教授	会長
角 野 幸 博	学識経験者	関西学院大学 総合政策学部 教授	委員
田 原 直 樹	学識経験者	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	副会長
高 田 理	学識経験者	神戸大学大学院 農学研究科 教授	委員
平 野 斉	行政	篠山市 政策部長	委員
中 川 泰 一	行政	丹波市 企画部長	委員
近 藤 俊 幸	行政	丹波市 産業経済部長	委員
北 中 五 雄	行政	兵庫県 丹波県民局丹波土木事務所 まちづくり参事	委員

<事務局> 丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課長 瀬尾 保志

(3)活動報告パワーポイント資料
 《関西大学 TAFS 佐治スタジオ》









学生や住民にとっての「まちの居場所」



真っ暗なまちの夜に生活の明りが灯る



「地域再生」滞在型講座



2泊3日丹波に滞在し「地域再生」をテーマに活動



滞在型交流ワークキャンプ



丹波の景観を支える生業を体験



丹波の景観を支える生業を体験



地域交流ワークショップ



地域交流ワークショップ -丹波を知ろう-



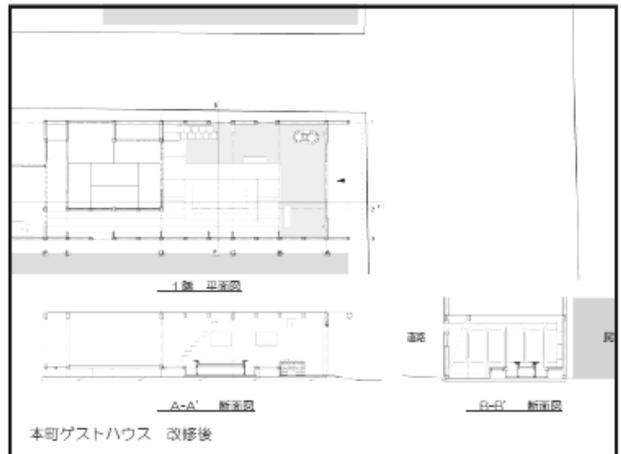
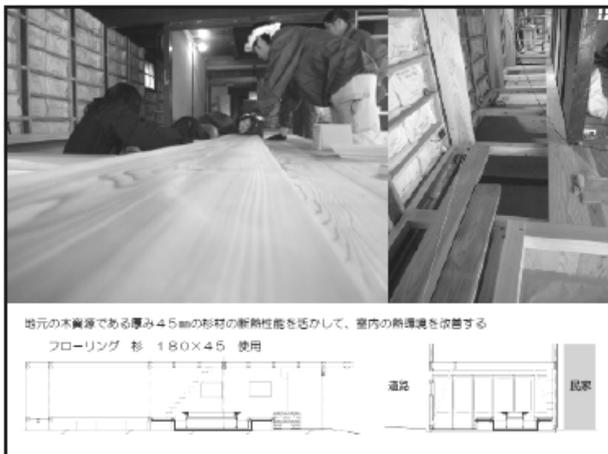
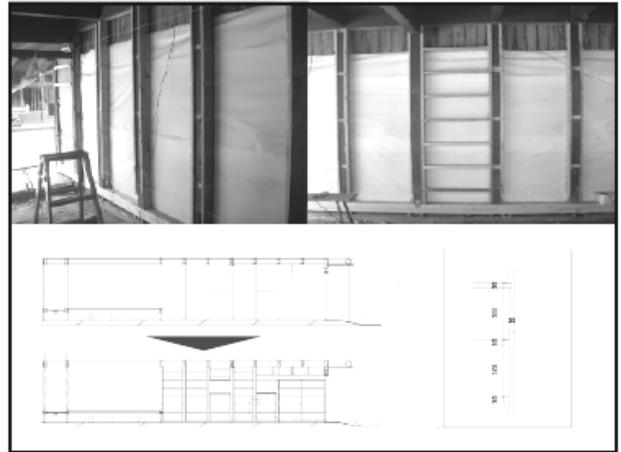
地元の人と一緒に活動する -地域の祭りに参加-



本町ゲストハウス
空き家リノベーション第2弾



空き家リノベーション第2弾 本町ゲストハウス



佐治農園 一休耕田活用・地域交流の場へ



空き家を活用していく仕組み作り







地域住民・自治会・関係大学等

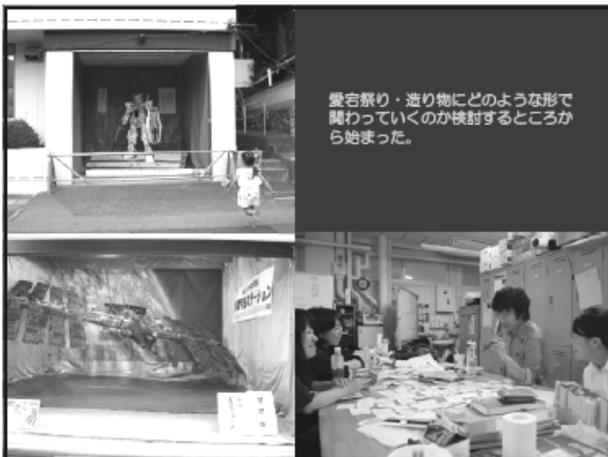
「成松を知る」
地域の魅力を発見し、共有しよう
自分の地域の魅力を意識し、
地域の責任を認識し、共有する

空家の未活用
空き地・駐車場・建替え

■短期的な空き家の活用と地域行事の連携
「愛宕祭り」の「遊び場」の表示
まろやか文を昇への合奏
加元教育機関との連携

■交流拠点施設空き家活用のお話し
→経験を経て、本格的な空き家活用へ

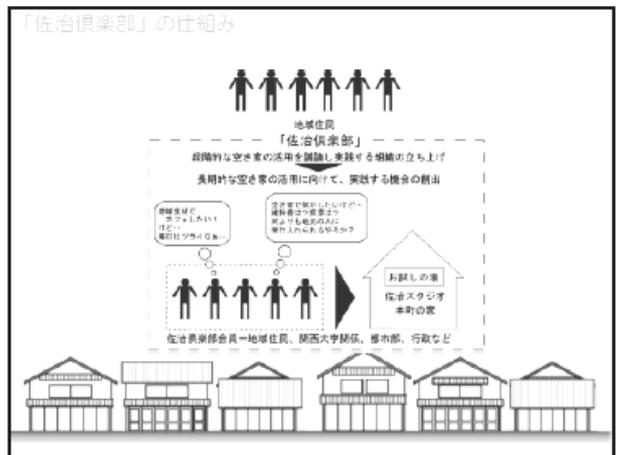
長期的な空き家の活用へ

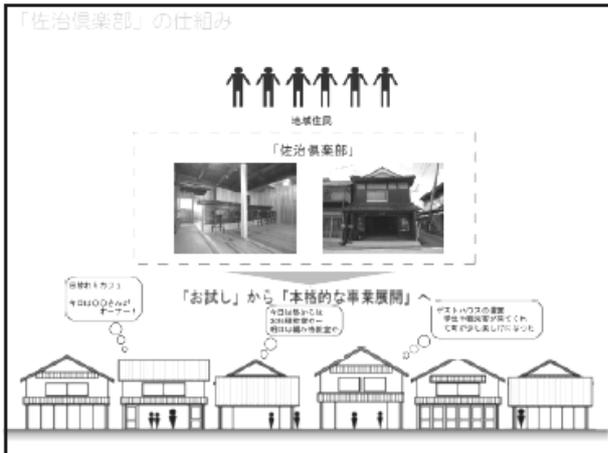


愛宕祭りコンペティション=ATACOM

公開審査会











そして…。4大学スタジオの連携

スタジオ交流…地域の課題をみんなで共有し、考える仕組み作り
→常にスタジオが開いているという状況をみんなで作れないか？

ATACOM参加…ATACOM2011を開催します！

何ができるのか考えることから始めたいですね。



《関西学院大学柏原スタジオ》

**関西学院大学
柏原活動報告**



関西学院大学大学院総合政策研究科
博士課程前期1年
北出悟士




柏原で活動を始めたいきっかけ

丹波市中心市街地活性化基本計画
(H21.3.27認定)

基本計画に基づく事業を支援

覚書(駒まちづくり柏原と大学が締結)

- ・「織田まつり」等の地域イベントの活性化
- ・商店街の活性化
- ・学生による施策提案

⇒ H21.4月 授業「都市政策演習」開講
毎月1回のフィールドワークがスタート

2009年度 年表(前期)

4月	5月	6月	7月	8月
第一回現地 フィールドワーク	第二回現地 フィールド ワーク 4月調査の分析	第三回現地 フィールド ワーク まちなみ調査 建築物形状調 査	第四回現地 フィールド ワーク ワークショップ 準備 建築物形状調 査	夏祭りに参加 高校生とワーク ショップ 模型制作開始 建築物形状調 査
株式会社まちづ くり柏原社長 篠野さんによる 講義 観光協会会長 松下さんによる 講義	県民局の方 による講義 SWOT分析		4回卒業論 文開始	ワークショップ 結果分析

**2009年度
4月~5月**

柏原の探訪・説明

↓

学生の柏原の感想
および
柏原の分析を開始



(写真1: 柏原のまち歩き)



(写真2: まち歩き後の初の授業での意見や感想)

2009年度 4月・5月: 分析

	学生の意見・感想
まちの強み (内的要因)	コンパクト 歴史資源を活かしている工夫が良い
まちの弱み (内的要因)	ミニ開発が目立つ 目玉となるものがない
まちの機会 (外的要因)	特急が停まり、駅前に柏原がある 歴史ブーム
まちの脅威 (外的要因)	隣の篠山市も歴史的なまちなみを推している ので柏原個々としては弱い印象がある。

**2009年度
4月・5月: 分析を踏まえて**

学生独自に柏原の問題点と課題からの意見

↓

- ・若者を参加させる
- ・織田祭りやうまいもんフェスタでのイベント出店
- ・ワークショップの開催
- ・宣伝の仕方
- ・特産品の開発
- ・全国の城下町との比較

etc...

2009年8月4日高校生とのワークショップ開催

内容

1. 柏原のまち歩き
2. 柏原の古写真を用いて現在のまちなみと昔のまちなみを比較
3. まちの好きな場所とあまり好きない場所、その理由を記入

目的

1. 若者に「柏原」を知ってもらう
2. 普段と違う目線でまちを見てもらう
3. 若者たちに柏原のまちの発信者となってもらう

結果

- ・ 柏原の歴史を知らない子が多数
→ 城下町だと知らない、etc...
- ・ 好きな場所と好きくない場所がある
例) 好きな場所→八幡神社周辺、○○○
[理由: 落ち着く、シュークリームが美味しい]
好きくない場所→八幡神社と学校を結ぶ道
[理由: 暗い、人気がない]



模型制作・家屋形状調査

まちなみの景観調査を行い、「まちなみ模型」を制作しました

目的

- 柏原のまちなみを客観的に把握するため
- まちなみのイメージ共有
- ハード面でのまちづくりを機す



1/100サイズの模型

1/500サイズの模型

家屋調査の様子



2009年度 年表 (後期)

9月	10月	11月	12月	1月
模型制作 織田祭りに向けた準備 (古写真・ワークショップ・KGカフェ) 建築物形状調査	11日・12日 織田祭り (ワークショップ・KGカフェ・模型) 30日 まちづくりワークショップ	7日 リサーチフェア (at 関学三田キャンパス)		29日 活動報告会
	織田祭り・ワークショップの結果分析	活動報告書作成開始	活動報告書作成 4回生卒業論文提出	活動報告書完成 3回生進級論文提出 4回生卒業設計完成

織田祭り・うまいもんフェスタ

- ・ 柏原の名産品を使ったオープンカフェ (KGカフェ)
= 黒豆うどん・栗カレー・黒豆茶 etc...
→ 来訪者には地元商店街で使える割引券を配布
- ・ 来訪者のまちなみイメージ調査を実施
= 「古写真」と「現在」のまちなみとの比較⇒好きなまちなみを選択
→ 回答者にはKGカフェの割引券を配布

織田祭り・うまいもんフェスタ

来訪者イメージ調査の工夫



武者行列に参加



織田祭り・うまいもんフェスタ

KGカフェの様子



イメージ調査の様子



古写真

- 古写真を用いて、現在と昔を比較し、柏原の新しい観光資源発掘・町並み保全などに利用していく。

(例) 八幡筋商店街



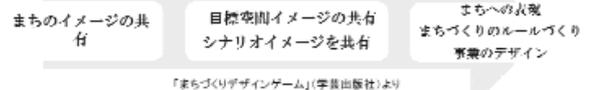
昭和30年



平成21年

2009年10月30日 柏原まちづくりワークショップ

- まちの目標イメージゲームを実施
 - <目的>
大まかなまちづくりのイメージを共有
 - <内容>
まちの将来像をかいたカードを用意
参加者に各人が考えている将来像に最も近いものを選び、理由を記入



『まちづくりデザインゲーム』(学芸出版社)より

2009年度の活動報告 (10月30日 柏原まちづくりワークショップ)

- 結果
 - 歴史性を活かしたい
→ 良い点: 障子・昭和レトロな商店街・まちなみ etc...
 - 悪い点: 空き家・ミニ開発 etc...
 - 人と人とのつながりを強くしたい
→ 良い点: あいさつ日本一を目指そう
 - 悪い点: 元々の住人と引っ越してきた住人とのコミュニケーション不足
→ 家庭菜園で解決した人も...
- 「他者」関学生の声
 - 華がきれい → 夜の柏原をアピールしては??
 - 道が狭いのに車のスピードが速い
→ 安全なまちづくりも必要では??

1年間の活動報告 (10月30日 柏原まちづくりワークショップ)



2009年 11月7日 関西学院大学リサーチフェア

- 目的
 - 柏原での活動を他の学生、リサーチフェア訪問者に認知してもらい、柏原をアピール
- 内容
 - 模型の展示
 - 古写真を使ったミニワークショップの開催
 - ミニKGカフェ



2009年度 卒業研究・卒業制作 角野ゼミ

観光ボランティアガイドの活動実態に関する研究
安部沙也子
各地で増加している観光ボランティアガイドの活動を調べたうえで、「おひばらふるさとガイドクラブ」の設立経緯、活動内容、報酬等を、関係者インタビューやワークショップ等によって考察した。

まちづくりにおけるブランド戦略についての研究
一五感に訴えるまちづくり
樋上雄哉
「えひめ町並」や「結後参道」を事例にまちづくりのブランド戦略の概要、方法、効果について検証し、実践論として論じた。

地域医療における医療問題と解決の構築
一丹波藩城における医療取り組み
田中直哉
医師不足、医師偏在等様々な地域医療問題が顕在化しているなかで、全国に先駆け展開された「県立丹波病院総合診療科」の活動を振り返り、今後の地域医療の可能性を考察した。

資源を有効活用した地域ブランド化戦略に関する研究
一丹波市のシカ肉ブランドを事例として
寺井友哉
地域ブランド商品の開発についての先行事例を調べたうえで、現在丹波市が取り組んでいる丹波シカブランドを事例に、その開発体制、PR戦略、今後の展開等を考察した。

まちづくりにおける行列の効果に関する研究
小嶋了まみ
地方都市活性化イベントの一環として様々な行列(パレード)を実施する事例が増えている。歴史的町並みを残す都市の行列を抽出し、その効果を明らかにすることによって、農田まわりの魅力アップの可能性を考察した。

**アイデンティティ形成による地方小都市
中心市街地活性化の可能性**
一兵重典 舟橋 市と教養市を事例に一
南友貴
柏原町商店街と教養市駅前商店街で同様の結
果者アンケート調査を実施し、活性化のため
のアイデンティティ形成の可能性について比
較考察を行った。

TMOによる中心市街地活性化の展望
木下三四郎
各地の旧城下町に設定されたTMOの活動事例
を比較検討するとともに、柏原でのワーク
ショップ、ヒアリングなどを通じて、TMOが
中心市街地活性化のためになすべき課題を考
察した。

地方都市における商店街の活性化
宮上昌信
意識が著しい地方都市の中心商店街の再生方
策を探るために、柏原町内の商店街に対して
アンケート調査を実施し、実態を明らかにし
た。

柏原町空き店舗活性化
藤本美恵
商店街の経営者アンケートおよび空き店舗の
所有者へのヒアリングを行うことにより、
今後の商店街の持続可能性を考察した。

**地域活性化におけるまちなか研究室の役
割**
藤原美香
近年各地に誕生している「まちなか研究室」
に着目し、その誕生経緯、活動内容、地域へ
の効果などを調べることで、関学柏原
スタジオの活動課題を考察した。

柏原の足跡
河野広貴
住宅地帯を手塚かりに、昭和54年から現在ま
での柏原町内の商店街の店舗立地状況を追跡
調査し、空き店舗化や活性化の実態を明ら
かにした。これを踏まえて、地域街並型店舗
の可能性を考察した。

空家利用の可能性について

平成14年 平成21年

■ 飲食 ■ サービス ■ 施設⇒民家
■ 食料品 ■ 医療
■ 物販 ■ 空き家

「人が集まるコミュニティセンター」

- ・なんとなく行くことができる場所、いくと誰かに会える場所
- ・地域の人が活発に動き、趣味をつくることのできる
- ・引きこもりがちな高齢者にとっての外での集場所
- ・安く気軽に飲食・雑談ができる店

1F・・・カフェ、会議室×2、調理室、多目的室、和

交流施設としての小学校改修計画

1階：郷土資料の展示
2階：視聴覚室、談話室

地域住民や観光客など外部の人でも利用できる。
郷土学習によって地域住民や外部との交流を図る。

2010年度 年表 (前期)

4月	5月	6月	7月	8月
第一回 現地フィールドワーク	第二回 現地フィールドワーク	第三回 現地フィールドワーク	第四回現地 フィールドワーク	第五回現地 フィールドワーク

株式会社まちづくり柏原社
長 荻野さんによる講義

チーム分け
● イベント班
● アーバンデザイン班
● ワークショップ班
● 模型班

篠山まち歩き
↓
柏原との比較検討

2010年4月 第一回フィールドワーク

2010年6月19日 篠山市まち歩き



2010年度 年表 (後期)

9月	10月	11月	12月	1月
第六回 現地フィールド ワーク	第七回 現地フィールド ワーク	第八回 現地フィールド ワーク	第九回現地 フィールド ワーク	第十回現地 フィールド ワーク
関学カフェ プレオープン	織田祭り ↓ 関学カフェを オープン	プレワーク ショップ開催 (学生内)	18日 ●関学カフェ ●柏原でおつ かいをしよう ●ワーク ショップ 開催予定	

2010年9月 関学カフェ プレオープン



2010年10月 織田祭り



2010年11月プレワークショップ (学生内)

目的

- 12月のワークショップの準備
- 今後の活動についての具体案の模索
- 関学柏原スタジオの模型の作成のための実寸調査



結果

- 12月開催のワークショップの手順確認
- 今後の活動についての提案、実行に向けての各人の活動を確認
- 関学柏原スタジオの図面を作成開始



反省点・課題

- 昨年度から今年度への引き継ぎ
- 去年の反省が活かされていない→計画性・準備不足
- フィールドワークの目的の意義の確認不足・参加率の低さ
- 全体をまとめるリーダーの不在
- 学生グループ同士での情報交換不足
- 各種制度などの知識不足
- 長期休暇の間、柏原に関わっていない
- 地域の方、まちづくり柏原、行政との関わり
etc...

今後の活動予定

- 2010年12月18日（土）
- 柏原でおつかいをしよう
 - KGカフェ
 - ワークショップ

計画中・実行前...

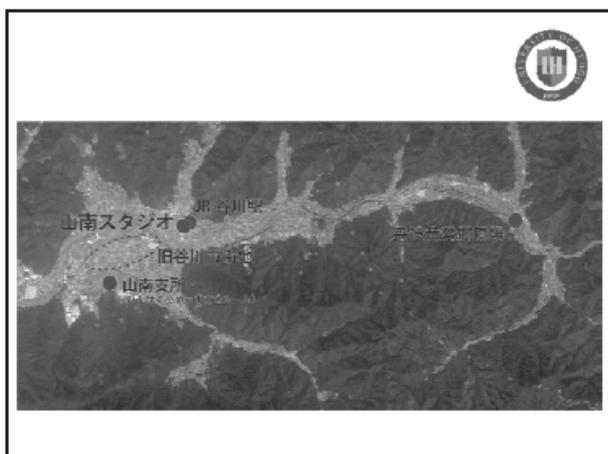
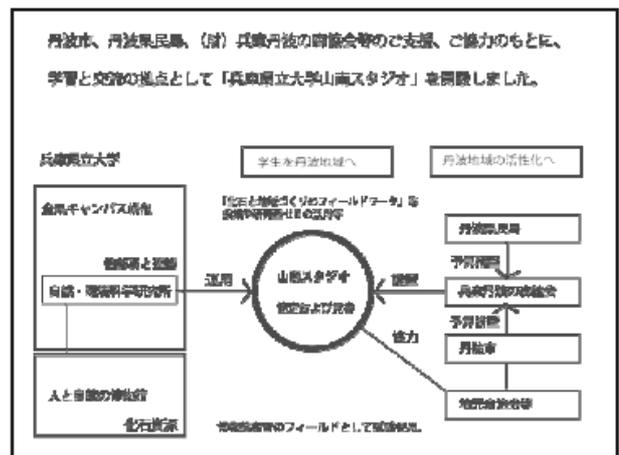
- 季節ごとに季節に合わせたカフェを開催
- 長期的に続けられる学生主導のイベントの考察
- 長期休暇の関学柏原スタジオの利用促進案
- 来年度のメンバー確保→認知度UPのための広報



御静聴ありがとうございました

2010年12月12日

《兵庫県立大学山南スタジオ》





山南スタジオの活動方針



1 趣旨・目的

兵庫県立大学の全県キャンパス構想に基づいて「学習と交流」に貢献すべく設置する**拠点施設**です。

山南スタジオは、このように篠山層群などの丹波地域の特色のある資源を活かしたまちづくりを支援することを目的としている。



2 活動方針

- ・丹波地域の特色ある魅力の発見と、学習・交流、情報発信の拠点。
- ・学生のフィールドワークの拠点。
- ・人と自然の博物館との連携による、調査研究や社会貢献、生涯学習の拠点。



(1) 特色ある地域づくり

ア 授業の展開

- ・全学共通科目「化石と地域づくりフィールドワーク：田原」の開講
- ・月1回3コマ分のペースで10月～2月にフィールドワークを行う。

イ 人と自然の博物館との連携

- ・「丹波地区の化石資源を活かした人づくり」の活動拠点
- ・上久下地区、地域づくり支援の継続



(2) 人材育成

ア 学習と交流のための社会貢献活動

- ・博物館実習など

イ 県立大学教員が行う、社会貢献活動

- ・ガキっ子クラブ（県立有馬富士公園の夢プログラム）での宿泊体験活動
- ・8月21日～22日に実施（大学院緑環境マネジメント研究科嶽山講師）



(3) 学術・調査研究

ア 大学・大学院の授業フィールド

- ・環境人間学部都市設計論及び演習
- ・環境戦略特論、環境文化特別演習
- ・大学院緑環境マネジメント研究科（淡路景観園芸学校）との連携

イ 環境人間学部や経済学部等の研究室によるゼミの活用

ウ 総合共同研究のフィールド

- ・人と自然の博物館の調査研究

14) その他



- ・人と自然の博物館の発掘ボランティアによる活用
- ・丹波竜の発掘に係るボランティア等の視点としての活用検討



2 オープニング





3 授業の様子





4 課題

- 
- 使用頻度が低い
 - 地元の方々との交流
 - 学内外での認知

 - 様々な人が活用していく必要がある。

《神戸大学篠山フィールドステーション》

**野良仕事を学ぼう、田舎に学ぼう／
地域活性化につながる提案づくりに挑戦**
—篠山市における神戸大学農学部取り組み—

神戸大学農学部篠山フィールドステーション
近藤史（地域連携研究員）

**篠山市における二つの
農業体験学習プログラム**

- 農業農村フィールド演習
「野良仕事を学ぼう、田舎に学ぼう」
- 農業農村プロジェクト演習
「地域の活性化につながる提案づくりに挑戦」

演習の位置づけ

文部科学省 質の高い大学教育開発プログラム
プロジェクト（平成20-22年度）
「食農コープ教育プログラム」

Cooperative Education on Food and Agriculture
地域と共に育む学生の力



**コープ教育（Cooperative Education）
とは**

- ・コープ教育は、教室での学習と職業体験とを統合する、組織化された教育戦略を意味する。これにより理論と実践を結び付ける経験を提供する。
(Cooperative Education & Internship Associationによる定義)
- ・米国シンシナティ大学においてコープ教育を初めて実施した（100年前、シュナイダー博士）
- ・インターンシップ（在学中に会社等の職業体験をする）

食農コープ教育とは

農学部の専門教育（理論）と、食と農の現場での実践とを統合し、理論と実践の反復により、教育の質を高める教育戦略。



農学部の専門教育（理論）

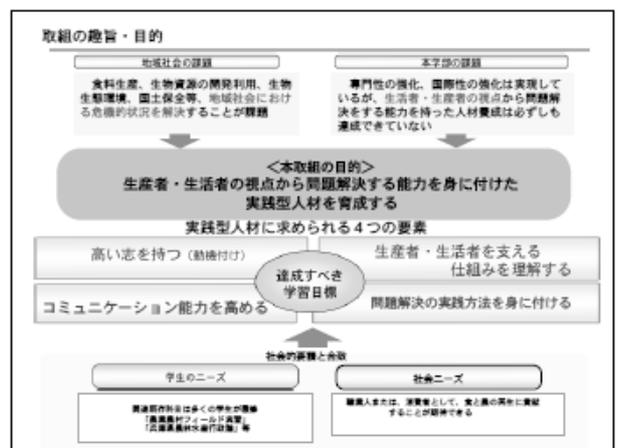


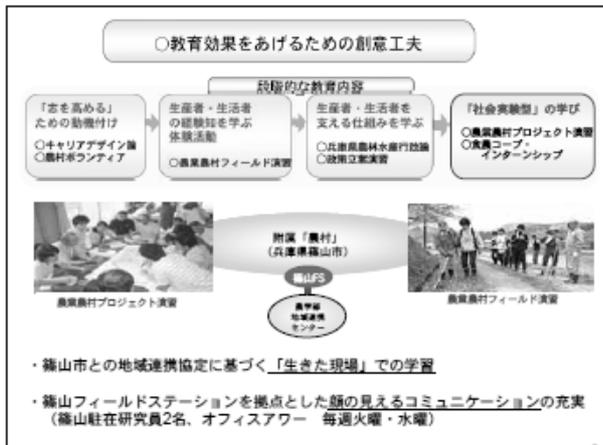
食と農の現場での実践

理論と実践の反復が教育の質を高める
実践を踏まえた理論の進化

●食農コープ教育の特徴

- ・食と農の現場での職業体験に加えて、生活体験も含めていること。
- ・地域の課題解決や活性化への貢献に力点を置いていること。





篠山市と農学部の連携の歴史

1949 兵庫県立農科大学（神戸大学農学部の前身）

-1967年 特産品となっている黒大豆、山の芋の生産販売など、農学分野の様々な課題解決をともにすすめてきた歴史。

2007年 神戸大学農学部・篠山市地域連携協定の締結

大学の移転にともなって失われつつあった双方のネットワークを新たに紡ぎなおし、農学分野を中心とした地域の課題解決、大学の教育研究の充実による双方の持続的な発展を目指す。

- 2007年～ 農業農村フィールド演習
- 2009年～ 農業農村プロジェクト演習

2010年 神戸大学・篠山市地域連携協定の締結

包括的な連携を結び、より充実した双方の発展を目指す。

二つの農業体験学習プログラム① 農業農村フィールド演習

現場に
触れる

この演習では、兵庫県内の農村地域において、地元農家等を講師として、農作物の栽培やさまざまな村仕事を学びます。2010年度は篠山市で年8回実施します。自らの体験を通して農業と農村生活への理解を深め、生産者・生活者の経験知を体得します。

田園で養う
農へのまなざし

■ 農業農村フィールド演習 1年次通年・選択1単位

農業農村フィールド演習

- ・受講生：農学部 1～4回生 36名
- ・時期：通年8回（日帰り）
- ・場所：篠山市福住地区
- ・受入先：まちづくり協議会を通じて
西野々集落の農家さん10家族
※1家族2～4名程度

フィールド演習の活動内容

- 4月 里山を食べる「生物多様性クッキング」
- 5月 田植え、水管理の仕組みを学ぶ
- 6月 黒豆の播種・獣害防止ネットの設置
- 7月 黒豆の支柱立て、草刈り等
- 9月 稲収穫、米を知る（食味調査）
- 10月 黒大豆枝豆の収穫・調整、米販売を考える
- 11月 黒大豆葉取り、地域の魅力探し
- 1月（予定） ふり返り、交流会

特産品の栽培を知る

農家の皆様に教わりながら、黒大豆の植え付けから収穫までを体験学習







二つの農業体験学習プログラム②
農業農村プロジェクト演習

**問題解決
の実践**

この演習では、食と農の現場で合宿し、農村地域の活性化につながるアクションプランを考えます。地元農家の方々と一緒に提案づくりを行うことで、地域社会における行動作法や、計画的・建設的な議論の進め方を学び、問題解決の実践方法を身につけます。

**地域社会と共に
提案づくりに挑戦**

■ 農業農村プロジェクト演習 3年次通年・選択1単位

農業農村プロジェクト演習

- ・受講生：農学部3年生 14名
- ・プログラム：現地合宿（1泊2日×2回）
+校内学習
- ・場所：篠山市真南条上・豊岡市
- ・実施テーマ
 - A班：コウノトリ育む生物多様性の創出
→稲作の生物層づくり
 - B班：丹波の赤じゃが地域特産化の推進
→農家レストランの企画・実施

●A班（生物多様性）

第1回合宿 5月29-30日（真南条上） 足踏み代掻き・生き物調査

第2回合宿 7月17-18日（真南条上・豊岡） 2地域の生き物比較調査

追加活動 11月17日（真南条上） 生き物層ヒアリング



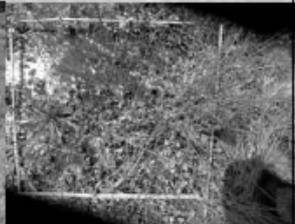
・休耕中の湿田をピオトープに！
（足踏み代掻き&泥遊び）

・安全安心ブランドの米づくりに
地域の生物多様性を活かす

ピオトープ田づくり

足踏み代掻きと
生き物調査





生物層を調べる

・地域の生き物資源
の確認、活用
（年代別変化、分布）





●B班（農家レストラン）

第1回合宿 5月29-30日（真南条上） 計画づくり

追加活動 7月3日（真南条上） レストラン運営会議

第2回合宿 7月17-18日（真南条上） 農家レストラン



・赤じゃがのPR

・多様な食べ方の提案

・コミュニティビジネス
の実験的取り組み

「丹波の赤じゃが」とは・・・

・真南条上営農組合×神戸大学コラボ 新しい特産品づくり

・赤い皮に、中身は黄色くクリのような甘みと
ホクホクした食感が特徴のジャガイモ

・H20年度フィールド演習が契機となり、
共同商品開発がはじまる




営農組合と共同で
「農家レストラン」の実施



おいしいわ、丹波の赤じゃが



赤じゃがコース料理&サプライズ地域の味



地域の人やモノといった
資源の発見・活性化

- ・女性による料理
- ・若手男性による会場設営等
- ・手作りの竹の器



農業体験学習プログラムの成果と課題

- (1) 「むらの教育力」のもとで
農業・農村の担い手の育成
- (2) 地域の活性化
- (3) 相互の学習と価値創造

演習後も学生が継続的に地域と関われる
サポート体制の整備！！